

1 広瀬 潤一 議員（創志会） 【一括】

(1) 坂本市長の政治姿勢について

- ・4期目を総括し市政運営をどのように評価しているのか。
- ・北陸新幹線福井開業を踏まえ、特に東尋坊再整備や丸岡城周辺整備など大型事業には国や県との連携が必要と考えるが、やり残した政策や課題等は何か。
- ・坂井市発展のため、その経験を生かし、引き続き市政運営をお願いしたいという市民の声も伝え聞いているところであるが、来春の市長選に向けてどのような考えを持っているのか。

2 辻 人志 議員（政友会） 【一問一答】

(1) 学校教育におけるICT機器の活用について

- ・本市の教育においてタブレット端末の位置づけは「教材」なのか、「道具」なのか。
- ・児童生徒がタブレット端末を使用するにあたっての心構えや注意事項、活用ガイドなどを明文化して指導しているか。
- ・貸与したタブレット端末は児童生徒が学校以外（例えば家庭や塾など）で使用できるようになるのか。
- ・端末や回線にトラブルが生じたときの対応として、デジタルに堪能なICT支援員などの配置やトラブル対応マニュアルを整備しているか。
- ・学校現場で対応できないトラブルが起こった場合、業者による対応は速やかに行える状況にあるのか。
- ・タブレット端末は児童生徒だけでなく、教員にもいきわたっているのか。
- ・今後「学び」以外の分野においてもタブレット端末の活用が求められると考えるが、どのような取り組みを考えているか。もし既に実践しているものがあれば、ご教示願いたい。

(2) 行政区の課題とその解決策について

- ・いわゆる限界集落、準限界集落といわれる地区の数は。（各町別にお示しいただきたい）
- ・それらの行政区が限界集落・準限界集落になるに至った要因をどのように考えるか。
- ・それらの行政区の実態把握や課題のあぶり出し、そしてその解決策を導き出すために本年度から「集落カルテ事業」に取り組んでいるようだが、進捗状況は。また現在までの調査でどのような課題が見えてきたか。

3 山田 秀樹 議員（創志会） 【一括】

(1) 若者の力をまちづくりに生かす仕組みづくり

- ・若い世代がまちづくりにかかわる仕組みづくりについて伺う。
- ・三国高校や丸岡高校でふるさと学習への取り組みが行われているが、卒業後も生かせる方策が必要と考えるが。また、これまで培われた若者参画実績はどう生かされていくのか。

- ・ SNSを使った行政への取り組みは効果的、効率的に行われているか。
- ・ パブリック・コメント(意見公募手続)の市民の意見を増やす方策は。

4 川畑 孝治 議員(政友会) 【一問一答】

- (1) より一層の子育て支援と高齢者対策を
- ・ 合併時の出生数は822人、コロナ前604人、コロナ禍では537人。より一層の子育て支援が必要では。
 - ・ 2025年を前に今からの対策が必要では。
- (2) 冬こそ鳥獣害対策を
- ・ 餌の少なくなる冬にこそ鳥獣害対策に取り組むべきでは。
 - ・ 餌になるようなものを出さないように市民への協力を求めるべきでは。

5 伊藤 聖一 議員(創志会) 【一括】

- (1) 財政状況について
- ・ 市の実質公債比率は、合併初年度の平成18年度決算では15.0%、平成19年度では16.4%であったが、令和2年度決算では6.5%と合併後の15年間で大幅に改善されてきた。その要因は何か。
 - ・ 利用可能な合併特例債は、あとどれだけ残っているのか。
 - ・ 今後、市の活性化と魅力度アップの切り札として、東尋坊再整備、丸岡城周辺整備、三国ビジョンなど大規模な開発が企画されている。合併特例債の利用が見込めないと思われるが、財政健全化の視点から財源確保で重要にすべき点は何か。
 - ・ これからの地域振興基金の使途方法をどう考えるか。
- (2) 坂井地区広域連合の今後の在り方について
- ・ 国が高齢者の医療と介護の連携を強化してきている現状を考えると、介護保険事業については、認定調査と認定審査会を除く事業を広域連合から外し、構成市それぞれが保険者として介護保険事業を実施すべき時期にあると考える。広域連合の見直しについての方向性・考えを伺う。
 - ・ 広域連合が見直しされる際には、広域連合を解散し一部事務組合とする方が合理的と思う。その点についての所見を伺う。

6 戸板 進 議員(志政会) 【一問一答】

- (1) 大雪時に対応する国・県・市との連携及び市の除雪体制について
- ・ 北陸自動車道が大雪により閉鎖され、車両が国道8号線に迂回することにより、滞留や渋滞が発生すると考えるが、少しでも滞留、渋滞を緩和するための方策はそれぞれの機関とどのように話し合われているのか。
 - ・ 丸岡町上安田地係に設置されたチェーン脱着場は、今年の大雪のときには未完成であったため、機能されていなかったと思うが、この脱着場はどのような場合に開放し、どのような機能を果たすのか。
 - ・ 融雪装置のある県道と国道との交差点では、県道の除雪がされないため、大きな段差ができ、スタックによる渋滞が発生する。これを解消する方策はないのか。

- ・県道の融雪装置の水量不足により、車両のすれ違いができないため、渋滞が発生する。県道融雪装置の水量アップはできないのか。
- ・旧町で隣接する団地の除雪は、一つの団地とみなし、一斉に除雪はできないのか。
- ・歩道用除雪車は11台と説明を受けたが、市内小学校19校に対して少ないのではないのか。市道が除雪された歩道は人が歩けないほどである。歩道用除雪車を増やすとともに、学校周辺の地域の方と協力し、少しでも早い除雪はできないか。

7 渡辺 竜彦 議員（創志会） 【一問一答】

(1) 第二次坂井市教育振興基本計画

- ・グローバル化が急速に進む中、本市の子どもたちに、国際的に活躍できる人材となるための取り組みはどのように行っているのか。
- ・急速に進む高度情報化社会に対応できる取り組みはどのように行っているのか。
- ・家庭環境や地域社会が大きく変化していくなか、規範意識や、人間関係を築く力を高める教育はどのように行っていくのか。
- ・生涯学習の充実を図るためにも社会教育と地域づくり活動のさらなる推進が求められるが、具体的にはどのように行っていくのか。

8 近藤 哲行 議員（政立会） 【一問一答】

(1) 三国の海に養殖場を

- ・安島や米ヶ脇などの三国の海で養殖場ができないだろうか。

(2) 三国病院を赤字から黒字化へ

- ・今の応需率はいくらなのか。
- ・病院へ行ったときにアンケート用紙があり私も書かせていただいたが、これは病院が出したアンケートか。
- ・病院に空気清浄機が設置されているが、患者さんから診察室にも置いてほしいとの声を聞いた。設置する考えはないか。
- ・リハビリの改善をされたが、患者数は何人か。また、一般の患者さんの受け入れは行っているのか。
- ・市民の方から聞いたが、産婦人科の先生が一人では大変だから増やすことができないか。
- ・当病院ではブロック注射はしないと聞いたが、それはなぜなのか。
- ・現在透析患者は何人か。
- ・前回は質問したが、リストバンドシステムを取り入れる考えはないのか。
- ・前回の大雪で看護師が帰宅できなかったと聞いたが、その中で一番困ったことが食事の確保ができなかったとのことである。その対策はできているのか。

9 畑野 麻美子 議員（日本共産党議員団） 【一括】

(1) 広域である介護保険の業務を見直し、あり方について考える時期にきている。協議、検討を

- ・介護保険の地域支援事業など、各構成市に委託され、構成市ごとで地域の実情に応

じた地域包括ケアシステムの構築を進めている。今後、より地域住民に身近なところでの施策を進めていくことが必要であると考え。広域連合である介護保険の業務は構成市でやるように、業務の見直しを協議、検討する時期と考える。いかがか。

- (2) ひとり親医療費、重度心身障がい者医療費など医療費無料については窓口無料に
- ・医療費無料における窓口無料化については、今日まで県や市町とどのように協議されてきたのか。
 - ・コロナ禍で収入が減ったひとり親などへ、市が医療費一時立て替えを行う支援策を。
 - ・ひとり親医療費、重度心身障がい者医療費など医療費無料については窓口無料に。
- (3) 「COOL CHOICE」市民運動推進における坂井市としての取り組みを
- ・地球温暖化対策として、「COOL CHOICE」の市民運動推進のために、エコ住のリフォーム助成、テイクアウトの紙パック補助、家庭用生ごみコンポスト補助など、坂井市としての取り組みを求める。

10 上坂 健司 議員（政和会） 【一括】

- (1) 「丸岡駅舎を拠点とした地域活性化」について
- ・駅舎活用は地域一体で考えるべきであり、駅を拠点とした地域活性化を図ることで、住民が利用しやすくなり、人が集まるコミュニティになると考えるが、現状と所見はどうか。
 - ・第三セクター化を見据えた利用促進とゼロカーボンシティの取り組みの一環として、丸岡駅周辺に複数の場所にパーク・アンド・ライドを設置してはどうか。
 - ・住民が利用しやすくなり、人が集まるコミュニティを形成するには、市独自の「有人化」が重要と考える。カフェを設け飲食物の提供や高校生らの自習スペース、コワーキングスペースなどを備えた拠点に拡充・改修してはどうか。
- (2) 重層的支援体制整備事業の推進について
- ・包括的相談支援事業の実施体制と複雑・複合的な相談状況はどうか。
 - ・複雑・複合的課題として「引きこもり支援」があるが、重層的支援体制事業との関係性はどうか。
 - ・「地域づくり事業」の取り組み状況はどうか。
 - ・重層的支援体制事業全体の推進・進捗管理体制はどうか。

11 後藤 寿和 議員（志政会） 【一問一答】

- (1) 坂井市シティセールスについて
- ・昨年コロナ禍の影響でいろいろな企画等ができなかったが、本年より総合政策部から産業政策部に事務を移管したことで、どのように変化したのか。
 - ・今後シティセールスの総合的な企画や戦略はどのように進めていくのか。
 - ・品川のアンテナショップの利用者数や売り上げは令和2年に比べて変化はあるのか。また、コロナ禍以前の令和元年並みに戻ってきているのか。
 - ・本年、第1回目の音楽フェスが開催される予定だったが、コロナ禍により1年延期になった。イベント等も規制緩和されてきているが、来年度の音楽フェスは予定通り開催されるのか。

- ・音楽フェスの開催に向けて、1年かけいろいろと準備していくと言っていたが、現在の進捗状況と今後のスケジュールは。
- ・音楽フェスを開催したときの経済効果などはどのように試算しているのか。
- ・音楽フェスとの同時開催のイベントなどは企画しているのか。

1.2 前川 徹 議員（政和会） 【一括】

(1) 空き家の増加を抑制する取り組みの充実を

- ・「坂井市空家等対策計画」の中間点を過ぎたが、計画の進捗状況は。また、空き家が今後増加することが予想されるとあるが、その具体的な要因は。
- ・空き家情報バンクへの登録状況の推移と効果、および市の支援体制による利活用の成果は。
- ・適切な維持管理がされていない空き家に対する取り組みと課題は。また、老朽空き家の自主的な除去を促すための支援策を充実すべきと考えるが。
- ・空き家相談会や出前講座の実施、リーフレットやポスター作成などの啓発活動、さらには地域と連携した取り組みなど、空き家化の予防を目的とした施策を強化すべきと考えるが。

(2) 里親制度や特別養子縁組制度の普及啓発をすすめるために

- ・令和3年度からスタートした福井県里親養育包括支援事業は、市町との連携や協力が必要とされるが、坂井市における取り組み状況は。
- ・里親制度の普及啓発のために、ターゲットを絞った広報活動、体験発表会、一日里親体験、里親希望者と施設児童との交流事業などを県と協力してできないか。
- ・里親制度や特別養子縁組制度は、不妊治療関連施策とあわせた普及啓発も必要と考えるが。
- ・3歳未満の里親等委託率の数値目標を概ね5年以内に75%以上と掲げるなど、国や県が強力に推し進める中、坂井市の今後の取り組み方針は。

1.3 三宅 小百合 議員（政友会） 【一括】

(1) 坂井市版エンディングノートで幸せなライフデザインを

- ・これまでに当市が行ってきた終活支援の取り組みは。
- ・エンディングノートの検討状況は。
- ・今後の取り組みについて。

1.4 松本 朗 議員（日本共産党議員団） 【一括】

(1) 「福祉灯油」、燃料高騰対策助成を求める

- ・市内産業、市民生活の燃料高騰の影響はいかがか。
- ・生活困窮者に対する灯油購入費に助成すること。
- ・社会福祉施設（養護老人ホーム、障がい者施設、保育所・幼稚園等）に対する暖房費高騰分の助成を求める。
- ・公衆浴場に対する燃料費高騰分の助成を求める。
- ・漁業者等に対する燃油高騰分の助成を求める。

- (2) 再び 認知症対策として、補聴器助成など施策を発展させる
 - ・認知症対策の一つとして、補聴器助成を。
 - ・抜本的かつ総合的な認知症対策の計画を策定すること。
- (3) 情報公開条例の改正 市利害関係者以外の者にも請求権を付与することを求める
 - ・過去に、第5条に規定していない者が請求を行おうとしたことがあったか。またその際の対応はどうしたか。
 - ・請求できる者は、条件を付けず、何人も可能とする改正を行うべきでないか。

15 永井 純一 議員（公明党） 【一問一答】

- (1) 「坂井市手話言語条例」の推進について
 - ・「坂井市手話言語条例」の制定後の取り組みについて、手話言語の理解と普及がどれほど進んでいるかの評価について伺う。
 - ・当事者（障がいのある方、手話通訳者）の立場から利用しやすいかどうか。
 - ・近年、教育現場では多様なことに対応しており、教職員や子どもたちも大変であるが、それでも小中学校で手話に触れる機会を増やすことが大事である。学校での取り組みを求める。
- (2) 「坂井市米の消費拡大等の推進に関する条例」の推進について
 - ・人の命をつなぐお米、坂井市米のさらなる消費拡大に向けての施策、新たに検討していることがあれば伺う。
- (3) コロナ禍の影響による中小事業者支援及び燃油高への支援について
 - ・アンケート調査の結果と結果に基づいて検討された対応策はあるか伺う。
 - ・燃油高によって大きな影響を受けている事業者への支援が必要である。対策を伺う。
 - ・生活困窮者や福祉施設などへの福祉灯油の支援が必要である。対策を伺う。
- (4) 災害時「マイタイムライン」の作成について
 - ・市防災訓練の日や防災の日などを活用し、タイムラインシートをもとに家族で話し合い現場確認などを行う日としてもよいと思う。全市民のマイタイムラインの作成について、直ちに行うことを求める。
- (5) 「重層的支援体制整備事業」について
 - ・「重層的支援体制整備事業」について、これまでの取り組みで感じられた意義と課題と今後必要とする取り組みについて伺う。

16 川端 精治 議員（創志会） 【一問一答】

- (1) 坂井市独自の移住定住戦略について
 - ・本市の令和2年社会動態増減数は114人の減少となっている。転入者数および転出者数とその状況分析結果を伺う。
 - ・坂井市UIJターン奨学金返還支援事業の申請状況は。
 - ・本市出身の県外に居住する学生を対象とした「坂井市ふるさと仕送りプロジェクト」の実績は。
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響により、婚姻数の減少や少子化のさらなる加速が危惧されている。若い世代が安心して結婚、出産、子育てができる社会環境を構築

することが不可欠であることから、さらなる支援策の構築が必要であると考えますが所見は。

- ・福井県は東京など都市圏に事務所を開設し、移住定住の推進や情報発信に取り組んでいる。県と連携し、本市の情報発信や移住定住戦略をさらに推進する必要があると考えますが所見は。